

平成30年度 郷土の音楽シラバス(芸術)

1. 郷土音楽の目標

- ・郷土の音楽に親しみ、基本的な奏法を取得する。
- ・郷土文化の歴史に興味・関心を持つ。
- ・豊かな心を養い、自ら学ぶ意欲を育て、郷土文化の継承・発展に寄与する生徒を育てる。

2. 単位数

科目名	単位数	学年	必修・選択	対象コース
郷土の音楽	4	1学年	選択必修	郷土文化
	5	2学年	選択必修	郷土文化
	5	3学年	選択必修	郷土文化

3. 成績評価

郷土の音楽の評価は「関心・意欲・態度」「表現の工夫」「演奏の技能」「知識・理解」の4観点の内容をもとに、各領域を総合的に評価し「成績」の資料とする。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の音楽の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に活動しようとする。 ・公正、協力、責任などの態度が身に付いている。 ・沖縄の文化に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認
表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。 ・郷土の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながらの表現を工夫し、表現意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認
演奏の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と曲の特性に応じた課題の解決を目指して演奏を行うとともに、演奏の技能を高めている。 ・創意工夫を生かした表現するための段階的な技能を身に付け、創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・演奏の確認 ・発表
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり、歴史や価値を考えたりして郷土の音楽に対する理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・グループノートの確認

4. 使用教科書

- ・参考資料：琉球古典音楽安富祖流工工四、琉球箏曲工工四

5. 授業の展開と形態

- ・コース1クラスを古武術、三線、琉球舞踊に分け、一斉授業を行う。

6. 学習方法

- ①郷土の音楽の種類「古典・民謡・創作音楽」などの構造や背景などの違いを知り、楽しさを味わう。

- ②独奏・合奏など、表現法の変化に対応できるよう学習する。

7. 履修上の留意点

- ①琉球楽器独特の響きを味わい、古曲の修得や、それらを生かした創作に取り組み、豊かな感性を培う。
- ②積極的に授業に参加し、自主的に協調性を持って行動する。
- ③礼儀作法を身につけ、実生活に役立てることができるようにする。
- ④郷土の音楽を通して、技術を高め、琉球舞踊や古武術などの郷土文化との関わりを味わう。
- ⑤個人・ペア・グループなどの活動を通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力を育成し、主体的な学習活動ができるようにする。

平成30年度 琉球舞踊シラバス(芸術)

1. 琉球舞踊の目標

- ・沖縄の音楽になれ、基本的所作を取得する。
- ・郷土文化の歴史に興味・関心を持つ。
- ・豊かな心を養い、自ら学ぶ意欲を育て、郷土文化の継承・発展に寄与する生徒を育てる。

2. 単位数

科目名	単位数	学年	必修・選択	対象コース
琉球舞踊	4	1学年	選択必修	郷土文化
	5	2学年	選択必修	郷土文化
	5	3学年	選択必修	郷土文化

3. 成績評価

琉球舞踊の評価は「関心・意欲・態度」「表現の工夫」「琉球舞踊の技能」「知識・理解」の4観点の内容をもとに、各領域を総合的に評価し「成績」の資料とする。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に活動しようとする。 ・公正、協力、責任などの態度が身に付いている。 ・沖縄の文化に関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認 ・服装の確認
表現の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。 ・琉球舞踊を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら琉球舞踊の表現を工夫し、表現意図をもっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認
琉球舞踊の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と曲の特性に応じた課題の解決を目指して所作を行うとともに、琉球舞踊の技能を高めている。 ・創意工夫を生かした琉球舞踊を表現するための段階的な技能を身に付け、創造的に表している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・所作の確認 ・発表
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・琉球舞踊を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感受しながら、解釈したり、歴史や価値を考えたりして琉球舞踊に対する理解を深めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・グループノートの確認

4. 使用教科書

・参考資料:琉球舞踊曲大全集、琉球舞踊入門編、琉球舞踊の世界～私の鑑賞法～、その他(DVDなど)

5. 授業の展開と形態

・コース1クラスを古武術、三線、琉球舞踊に分け、一斉授業を行う。

6. 学習方法

①琉球舞踊の種類「古典舞踊・雑踊り・創作舞踊」などの歩み、所作、リズムなどによりそれぞれの違いを知り、楽しさを味わう。

② 個人・ペア・グループなど、隊形の変化に対応できるよう学習する。

7. 履修上の留意点

①体を動かす楽しさや心地よさを味わい、動きやすい服装で、一人一人が健康と安全に留意して授業に臨む。また、健康の保持増進や体力の向上を図る。

②積極的に授業に参加し、自主的に協調性を持って行動する。

③稽古着を正しく着用し、礼儀作法を身につけ、実生活に役立てることができるようにする。

④琉球舞踊を通して、技術を高め、琉球音楽や古武術などの郷土文化との関わりを味わう。

⑤個人・ペア・グループなどの活動を通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力を育成し、主体的な学習活動ができるようにする。

平成30年度古武術シラバス(体育)

1. 古武術の目標

武道は、武技・武術などから発生したわが国固有の文化としての伝統的な行動の仕方が重視される運動で、相手の動きに対応した攻防ができるようにすることをねらいとし、自己の能力に応じ課題の達成に取り組んだり、競争したりする運動である。また、礼儀作法を尊重して練習や試合ができることを重視する運動である。

2. 古武術単位数

科目名	単位数	学年	必修・選択	対象コース
古武術	4	1学年	必修	郷土文化
	5	2学年	必修	郷土文化
	5	3学年	必修	郷土文化

3. 成績評価

古武術の評価は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「運動の技能」「知識・理解」の4観点の内容をもとに、各領域を総合的に評価し「成績」の資料とする。

評価の観点及び内容		評価方法
関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動しようとする。 ・公正、協力、責任などの態度が身に付いている。 ・健康・安全に留意して運動しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・グループノートの確認
思考・判断	<ul style="list-style-type: none"> ・自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、活動の仕方を考え、工夫している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・グループノートの確認
運動の技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して運動を行うとともに、運動の技能を高めている。 ・自己の体力や生活に応じて体力を高めるための運動の合理的な行い方を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・グループノートの確認 ・発表会の結果分析
知識・理解	<ul style="list-style-type: none"> ・社会の変化とスポーツ、運動技能の構造と運動の学び方、体ほぐしの意義と体力の高め方に関する基礎的な事項を理解し、知識を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中の行動観察 ・グループノートの確認

4. 使用教科書

・教科書：学校体育における空手道指導書（沖縄県教育委員会H29. 3）

5. 授業の展開と形態

・コース1クラスを古武術、三線、琉球舞踊に分け、一斉授業を行う。

6. 学習方法

- ①空手道の突き・蹴り・受けなどにより相手と攻防し競い合う「組手」と、仮想の相手に対して攻防しあう伝統的な「形」の習得を行う。
- ②古武道では、棒・釵・ヌンチャク・トウファー・手甲など武具の特性を学ぶ。また、伝統的な「形」や「形の分解」を通して、攻防や技の習得、動作の仕方を身につける。

7. 履修上の留意点

- ①空手着を正しく着用し、一人一人が健康と安全に留意して授業に臨む。
- ②積極的に授業に参加し、自主的に協調性を持って行動する。
- ③体を動かす楽しさや心地よさを味わい、健康の保持増進や体力の向上を図り、目的に適した運動の計画や自己の体力や生活に応じた運動の計画を立て、実生活に役立てることができるようにする。
- ④空手道・古武術の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに社会的な態度を養う。
- ⑥筋道を立てて練習や攻防について話し合う活動を通して、コミュニケーション能力や論理的な思考力を育成し、主体的な学習活動ができるようにする。